



ANTONI GAUDÍ I CORNET

神の建築家

(1852-1926)

アントニ ガウディー・イ・コルネ（1852年6月25日生）は、レウスの鑄掛職人だった父の仕事場で、幼少の頃よりさまざまな量感やフォルムを目にしながら育ちました。バイシカンブ郡の中央にあるリウドムス村の自営農家で暮らしながら、ガウディーの青い瞳は、彼にとって偉大な師であった「自然」の純粋なイメージを捕らえていったのです。

レウスのピアリスト会運営の高校を卒業後、バルセロナ建築専門学校に入学。ここで彼は、生涯で最も情熱を燃やすことになる建築を学びます。1883年、少し前から始まっていた聖家族教会の設計を依頼されます。その後、四十三年にわたって、特に同教会のために専心した最後の十年間は、全身全霊を込めて神の栄光のために働きました。信心深い書店主、ジュゼップ・マリア ボカベリャと彼の率いるジュゼフィナ協会によって創立された聖家族教会の宗教的また贖罪の主旨にすっかり共鳴したのです。

ガウディーは、確固としたどちらかという強い性格でしたが、又一方では、誰にも親しみやすい朗らかなところもある人でした。犠牲なしには何の進歩も得られないという信念のもと、祈りと清貧に明け暮れました。典礼を心から愛し、聖母マリアと、その夫ヨゼフの他、天使達や聖人達にも厚い信心を持っていました。それで、*ラ・ベドゥレラ* はロザリオの聖母のための建物として考えられたのです。ガウディーは1926年6月7日、電車に轢かれ、身元不明の行き倒れと思われ、6月10日に運び込まれた先の聖十字病院で息を引き取りました。こうして、彼がかねがね言っていた、どこかの病院で貧者に看取られて死を迎えたいという望みが叶ったのです。「おお、神よ、神よ、アーメン」これが彼の最後の言葉となりました。ガウディーのお墓は当教会の地下聖堂にあります。

私的な奉獻の祈り

あなたの下僕、建築家アントニ・ガウディーに創造物への大いなる愛と、幼な子の秘跡と受難を表そうとする燃えるような情熱を吹き込まれた三位一体よ、私にも仕事がよく出来るようにして下さい。又、アントニの取り次ぎによって、私の願い（*願い事をする*）を叶えて下さることにより、神の下僕であるアントニ・ガウディーに神の栄光をお授け下さい。アーメン。

イエズス様、マリア様、ヨゼフ様、我等に平安を与え、また家族を御守り下さい。（*三唱*）

お願いが叶って寄付をされたい方、御絵をご希望の方は下記までお申込みください。**Association pro Beatification of Antoni Gaudí: P.O. Box 24094 08080 Barcelona (Spain)**

尚、当協会は他の如何なるガウディー関係の組織、および聖家族教会建設委員会とは異なる独立した組織です。

教会当局よりの承認済み。

アーバン八世法王の教皇令に従い、私達は教会当局の見解を妨げる意図がないこと、またこの祈りの目的は一般礼拝に限られることを宣言します。